
僕達の知らない二次元 第1期

中央線次郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕達の知らない二次元 第1期

【Nコード】

N9338Y

【作者名】

中央線次郎

【あらすじ】

オリキャラを主人公にして多彩なクロスオーバー展開を盛り込みました。ぶよぶよメインですが、他のアニメなど、ゴチャゴチャ感のあるクロスオーバーとなっています。

国語力・文章力・表現力が低く、更新もものすごく気まぐれになる可能性が高いですが、皆様が読んでくださることを切に願っております。

なお、この小説はサイト「ぶよぶよ王国」にて今後掲載予定です。

第1幕 2次元への扉

――俺はごくごく平凡な生活を送っているはずだった――

俺は土岐大門、15歳。ごく普通の中学生。周りからは「テツ」というニックネームで愛されている。

だけど、もう俺は中学3年生。受験勉強に励む毎日さ。

俺は学校では勉強も運動もできる人間だと思ってるし、実際そうみたい。え、自慢話にしかなくてない！？

でもいいさ。俺は今幸せな生活をしているから、な。

俺には好きな事が1つある。それが「ぷよぷよ」だ。

あれはキャラも可愛いし、ゲームが苦手の俺が唯一打ち込める落物パズルだった。テトリスも好きだけどな。

大好きでならない存在で、受験勉強の合間に息抜きとして毎日プレイしていた。

@@@@

そんなこんなで、夏休みも後半戦。

こんな日でも俺はぷよぷよをしていた。

「うわ、サタンの野郎…」

また、負けた。それでも、楽しいと思えてくる。けれども、俺にはプライドというものがあって、どうしても許せなくて、

「よし、もう1回!」

とついつい長くなってしまふ癖があるのだ。
直さないとなあ、受験生だし。

1時間くらいして、ようやく俺はぶよぶよを終えた。時計の短い針が12の文字を指している。今日は受験勉強の続きを諦め、寝ることにした。

(また明日受験勉強に励もう…)

夢から覚めたのは午前の5時。まだ家族の誰も起きていない時間帯だった。

すると、俺の目に不思議な物体が写ってきた。

「何、これ……」

一瞬、目が壊れてるのではとか、幻覚でも起こしちゃったのだろうか、それともまだ夢の中なんだろうか、とかいろいろ俺は思ったが、結局は本当の出来事であったことにあとで気づいた。

俺は扉の前で立ち尽くした。しかし、謎のドアだ。家族の誰かが勝手に取り付けたものでもないし、ましてや前日にあったものでもない。

何があったんだろう、せつかくだから俺は入ってみることにしたのだ。

そして、俺はドアノブをカチツとひねった。扉は普通に開いた。中はなにか幾何学的な模様が漂うよく分からない空間だった。壁で仕切られていない、謎の空間。

俺はおそるおそるこの空間を歩きに歩いた。5分くらい歩くと、また目の前に扉が姿を表した。

「なんぞ、これ……」

もう夢中な気持ちで、俺はドアノブをひねった。

そこは、普通の誰かの部屋のように見えた。俺は気になって辺りを見回した。

勉強机の真上に寝床のある、パイプベッド。他にはちっちゃいテレビの横にWiiが置かれているように見える。あとは、クローゼットの折戸があるくらいか。

「いったい、ここはどこの家なんだろうか…」

俺は幻想の中にも本当にいるのではないか、と思っていると、俺の目には見慣れたようなこの部屋の主、女の子の声がした。

「ここに、誰か居るよ〜」

(つづく)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9338y/>

僕達の知らない二次元 第1期

2011年11月27日22時54分発行